

My report will be sent to you by tomorrow.

Who is going to do that?

なので常に「誰が何をする」という部分に注意して人の話を聞いたり、自分の言いたい事を整理しましょう。まだ誰がやるのか決まっていなければ、「It is not decided who is going to do this, but someone will do」という言い出し方が使えます。繰り返すと、日本語では主語を省略することが多いので、英語では特に意識して行為者である主語を特定します。もし第三者が行為者なら「they」を使うと簡単です。

They are selling this disk drive with 10% off today.

日本語でも英語でも受動形を使うのは、行為者が誰なのかを気にしなくていい場合に限ると話が分かりやすくなります。受動形を使うのは次のような文です。

I was born in Japan.

My laptop was stolen.

I was stuck in the middle.

英語で自分の考えを表現する場合、正解はひとつではありません。なので自分に合うものを引き出しから選んで使えば、意思疎通の道具としては十分です。人は予想しながら文を読むので、その予想に沿った分かりやすい文の流れが好まれます。また日本語と違って、書き言葉でも漢語のような難しい言葉を使う必要はありません。IT業界で難しい単語をたくさん使うのは契約書ぐらいです。相手も英語が母国語とは限りませんから、なるべく平易な単語を使いましょう。

《なぜ和文英訳をしてはいけないかということ、日本語と英語では表現の差がありすぎて、単語レベルで1対1になっていないからです。一般に日本語と英語ではN対Mになっています。英語の単語ひとつが複数の日本語に相当し、また日本語の単語ひとつが複数の英語に相当します。このため自分の言いたい事を英語で言う場合、単語レベルではなく一段下がった「想い」のレベルから英語で表現します。自分の引き出しに蓄えた表現から、その「想い」に一番近いものを選んで文字で記録するのが「書く」という行為です。》